

口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜噴火警戒レベル 5（避難）が継続＞

口永良部島で、本日（18 日）12 時 17 分頃に噴火が発生しました。天候不良のため、噴煙の状況は不明です。

噴火に伴う火山性微動を観測しました。新岳北東山麓観測点（新岳火口から北東約 2.3km）で、19.4Pa の空振を観測しました。なお、5 月 29 日の噴火では、同観測点で 62.2Pa で振り切れでした。

第十管区海上保安本部によると、口永良部島の東海上で、12 時 17 分に発生した噴火に伴うと考えられる小さな噴石及び降灰が確認されています。また、本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、屋久島町、西之表市及び中種子町で降灰を確認しました。

今後も、5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項等】

大きな噴石の飛散及び火砕流¹⁾の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

屋久島町の避難等の指示に従ってください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径 2 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがありますので、噴火に警戒してください。

○ 活動概況

・表面現象の状況（図 6-①⑤）

口永良部島で、本日（18 日）12 時 17 分頃に噴火が発生しました。天候不良のため、噴煙の状況は不明です。噴火に伴う火山性微動が 12 時 47 分まで継続したことから、噴火は同時刻まで継続していたと考えられます。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、海上保安庁、国土地理院、京都大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所および屋久島町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用しています (承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

・降灰の状況（図1、図2）

第十管区海上保安本部によると、口永良部島の東海上（新岳火口から約9km）で、12時17分頃に発生した噴火に伴うと考えられる、0.5～2.5cm程度の小さな噴石が降ったことが巡視船により確認されました。また、周辺海域で降灰も確認されています。

本日実施した現地調査及び聞き取り調査では、屋久島町、西之表市及び中種子町で降灰を確認しました。

・地震や微動の状況（図3、図4、図6-②⑤⑥）

火山性地震は、16日16時頃から増加しており、日回数²⁾は、16日に10回、17日に33回、18日は15時までには26回発生しています。

12時17分頃の噴火に伴って、火山性微動が発生し、12時47分頃まで継続しました。

・地殻変動の状況（図5）

新岳北東山麓観測点に設置している傾斜計では、12時17分頃の噴火に伴って火口方向が下がる傾斜変動が観測されました。

- 1) 火砕流とは、火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十kmから数百km、温度は数百℃にも達することがあります。
- 2) 地震回数は速報値であり、精査の結果、後日変更することがあります。

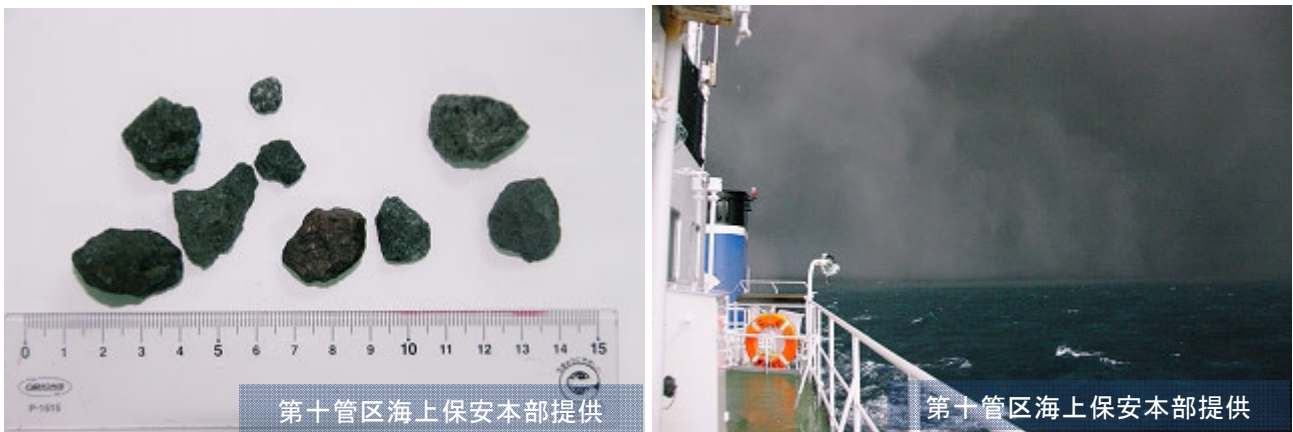


図 1 口永良部島 口永良部島東海上で確認された降灰と小さな噴石（2015 年 6 月 18 日）
（第十管区海上保安本部提供）

左：巡視船に降った小さな噴石、右：巡視船から確認された海域への降灰

- ・口永良部島東海上で 12 時 17 分頃に発生した噴火に伴うと考えられる小さな噴石が確認されました。
- ・口永良部島東海上で降灰が確認されました。

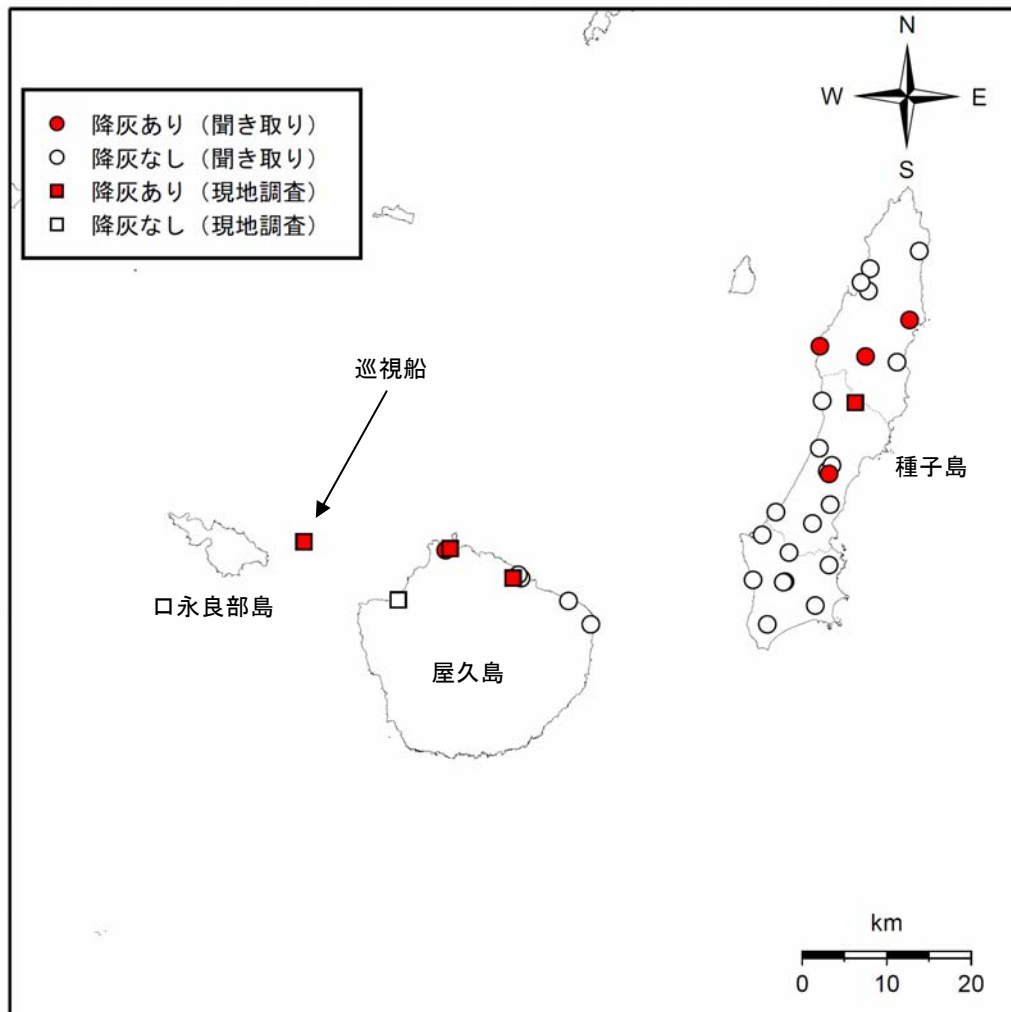


図 2 口永良部島 現地調査及び聞き取り調査による降灰の状況

現地調査及び聞き取り調査では、口永良部島の東海上、屋久島町、西之表市、中種子町で降灰を確認しています。

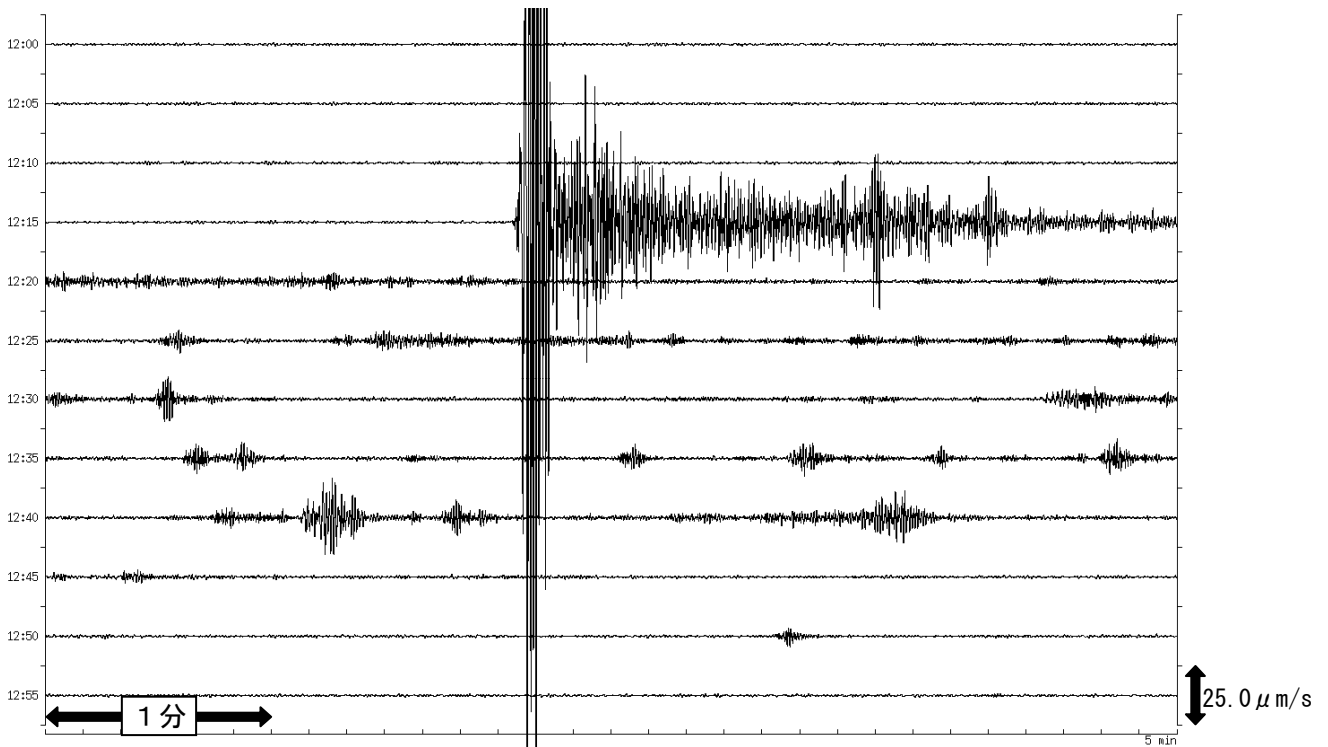


図3 口永良部島 噴火時の地震波形（6月18日12時00分～13時00分）
新岳北東山麓観測点（上下動）

18日12時17分頃の噴火に伴って、振幅の大きな地震が発生しました。

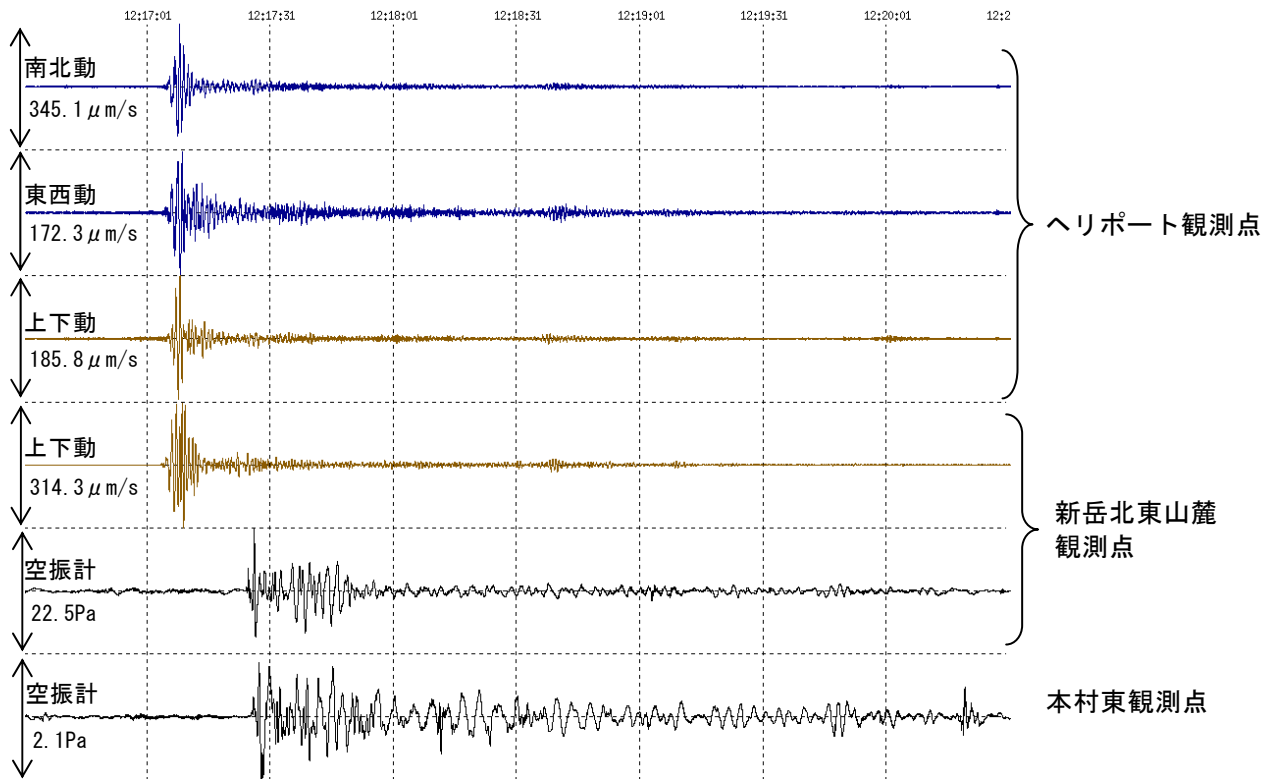


図4 口永良部島 噴火時の地震・空振波形（6月18日12時17分～12時20分）

新岳北東山麓観測点（新岳火口の北東約2.3km）に設置している空振計で19.4Pa、本村東観測点（新岳火口の北西約2.8km）に設置している空振計で2.1Paの空振を観測しました。

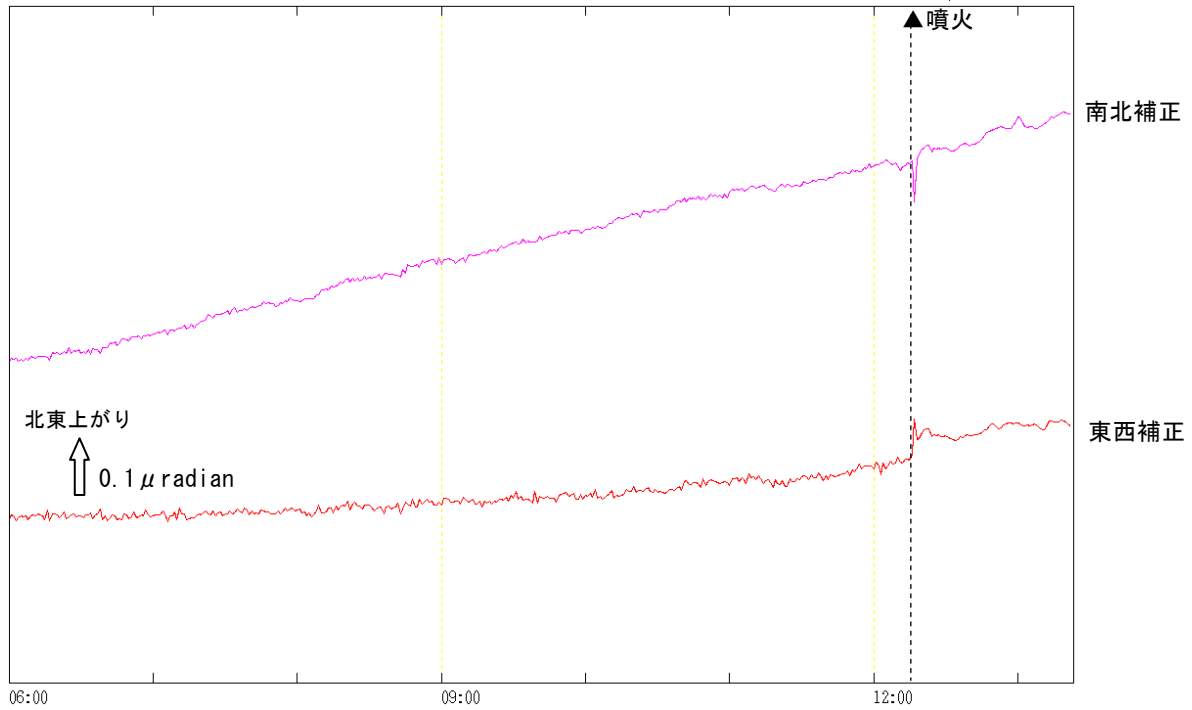


図5 口永良部島 噴火時の傾斜変動（6月18日06時00分～13時23分）
新岳北東山麓観測点（傾斜計）

新岳北東山麓観測点に設置している傾斜計では、12時17分頃の噴火に伴って火口方向が下がる傾斜変動が観測されました。

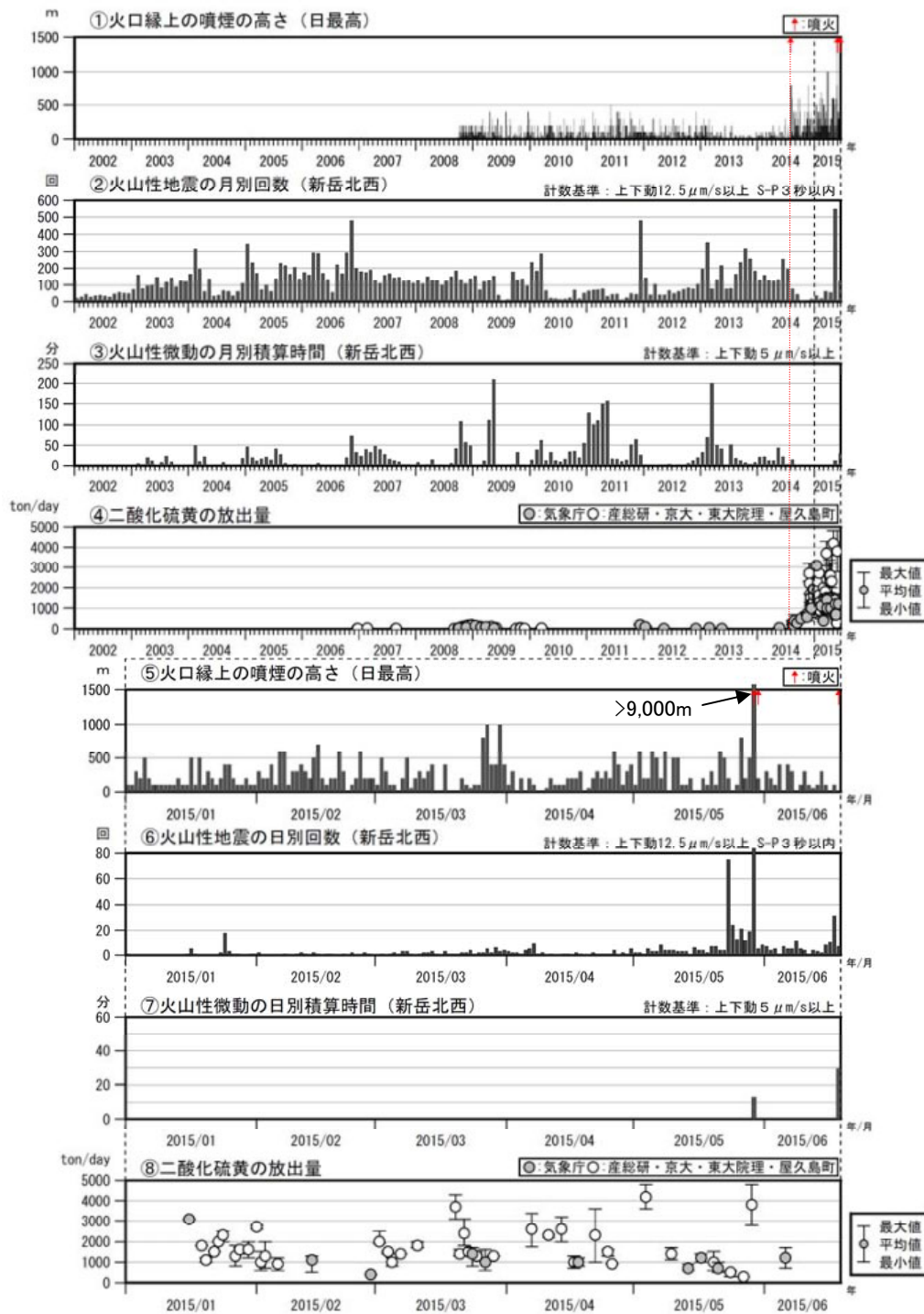


図6 口永良部島 火山活動経過図（2002年1月～2015年6月18日14時）

- ・18日12時17分頃に噴火が発生しました。噴煙は、天候不良ため不明です。
- ・この噴火に伴って火山性微動が発生しています。

※2014年8月3日の噴火により、火山周辺の観測点が障害となったため、噴火以降（図中赤破線後）は新岳火山から約2.3kmにある新岳北東山麓観測点で計数しており、検知力が低下しています。
 ※2015年5月23日に発生した島内のごく浅いところを震源とする地震（震度3、M2.3：暫定値）が発生したことから、監視を強化するため、5月1日にさかのぼって計数基準を見直しています。

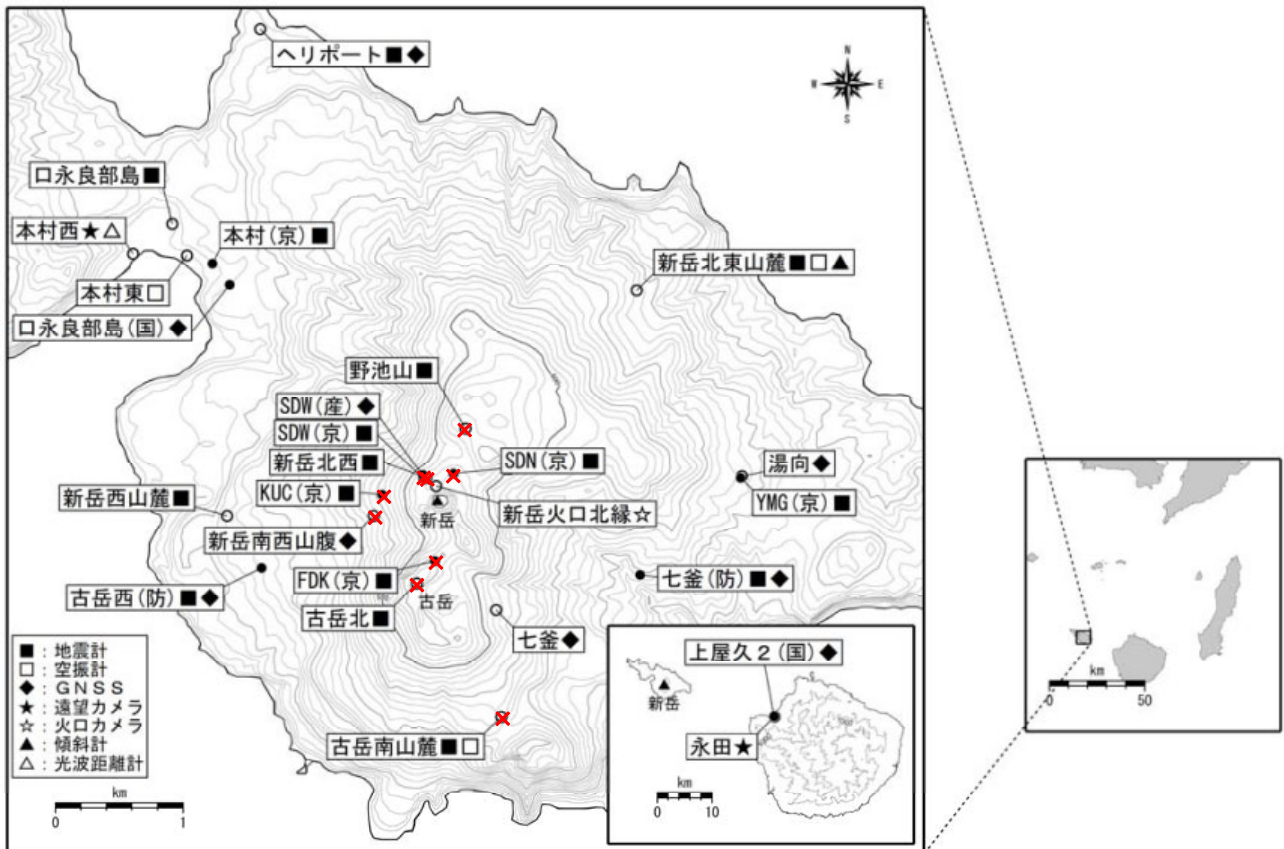


図7 口永良部島 観測点配置図

小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院、(京)：京都大学、(防) 防災科学技術研究所、(産)：産業技術総合研究所
 山頂周辺の観測点(図中赤×印)は、2015年5月29日以前から障害となっています。